

第25回選択理論心理学会年次大会

2016年8月20日～21日

日常生活に生かす選択理論

～私の選択～



会場 ピアザ淡海

滋賀県大津市におの浜1-1-20

www.piazza-omi.jp/access/

京都駅より琵琶湖線大津駅まで約10分、タクシーで5～6分です。膳所駅まで(14分)徒歩12分です。

年次大会スケジュール

20日	21日
10:00~11:30 選択理論心理学会 総会	9:00~ 9:30 受付 9:30~11:00 自主企画
11:30~12:30 受付	11:00~11:10 移動・休憩
12:30~12:50 開会式	11:10~12:00 分科会・口頭発表・プレゼン
12:50~13:20 GQS 視察発表	12:00~13:00 食事・移動
13:20~16:40 基調講演 (途中休憩含む)	13:00~13:50 分科会・口頭発表・プレゼン
17:30~19:30 懇親会	14:10~16:00 ロールプレイ研修 16:00~16:30 閉会式

開会式の開催時間が変わります

ニュースレターの春号で開催時間を 13:00 ~にしていますが、

12:30 ~に開会式を繰り上げて開催致します。ご注意ください!!!

開催時間を早めたのは、愛知県の元国会議員の木俣佳丈氏に、米国の GQS である Saint Patrick Cathoric School の視察報告をお願いすることにしたからです。木俣さんは学会員ではありませんが、視察された印象についてお話をさせていただきます。

基調講演

特別ゲスト ジム・ロイ先生



今回は特別ゲストとしてグラッサー博士の伝記を書かれたジム・ロイ先生をお呼びすることになりました。伝記に書き入れなかったエピソードやグラッサー博士が日常生活の中でどのように選択理論を意識して使われたかジム先生を通して語っていただきたいと思います。また、ロイ先生は学校の教師でグラッサークオリティスクールについても語っていただく予定です。

ロールプレイ研修

柿谷正期先生

分科会の発表タイトルと概要

① (選択理論)

『W. T. パワーズの「知覚のコントロール理論」』

W. T. パワーズの“知覚のコントロール理論”(PCT: 知覚制御理論)は選択理論のもとになった理論として知られていますが、その詳細を知る機会はあまりありませんでした。本分科会ではPCTの基礎的な部分を選択理論と比較しながら紹介しつつ、選択理論にどのように採用されたかを見ていきたいと思います。また、臨床面でPCTから活かせるものを探りたいと考えています。

② (RT)

『選択理論的アプローチで心も体もハッピーライフ』

選択理論によると、幸せな人生を生きるためには、外的コントロールを排した人間関係が大切であると、グラッサー博士は述べています。痛みやコリに悩む体にも外的コントロールのアプローチと選択理論的アプローチとがあります。体(筋肉)に無理な力がかかった時に体(筋肉)自身を守ろうとする仕組みが、慢性化することで痛みやコリは起こります。一般的に行われている外的コントロール施術ではなく、選択理論的施術を行うことで改善する方法や結果について紹介したいと思います。

③ (GQS)

『コンサルテーションにおけるルーブリック評価の援用に関する研究～ロールプレイ等のスキルアップに向けた相互評価のあり方～』

選択理論心理士やプラクティカム・スーパーバイザーの資格取得を目指している人で「自分自身としては、ロールプレイのスキルや選択理論に関する知識・理解の面で、そろそろ推薦をいただける域まで達していると思うのだけれど、コンサルタント(指導者)からなかなか推薦がもらえなくて…」と密かに悩んでいる人もいることでしょう。本分科会では「ルーブリック評価表の活用により、自己評価と他者評価とをどのように一致に近づけるか」ということについて考察します。

④ (LM)

『働いて幸せになる組織づくり～職場は欲求充足の場、物心両面の豊かさを追求して～』

販売促進の会社として起業して31年、選択理論心理学と出合って20年目、多くの組織変革を支援してきました。仕事で健全な欲求充足ができるだけでなく、「幸せに生きる力」が育まれる、そんな感動と出会ってきました。従業員に「がんばれ」という代わりに、従業員の上質世界の中にある「社会・お客様に貢献したい」という想いを実現する仕方、がんばりが報われるしくみづくり、そこにヒントがあると考えてきました。理念・ビジョンから想いを重ねて、実現していくプロセスの取り組みを紹介します。

⑤ (GQS)

『教室で選択理論心理学を学ぼう～小学校3年生での実践から～』

平成27年度担任をしている小学校3年生(30名)を対象に、人権教育で選択理論心理学の上質世界を学びました。「上質世界は人それぞれ違う」ということを伝えるために、ドラえもんアニメに登場するキャラクターを使いました。「のび太君の上質世界に入るものは何だろう」と考え、またドラえもんやジャイアン君の上質世界から三者三様に違うということ学びました。その授業の様子や子どもたちの反応、その後の変容について発表します。

⑥ (LM)

『クオリティ・チームづくりへの挑戦～皆で取り組むリード・マネジメント～』

リード・マネジメントと聞くとマネジャーのマネジメントの仕方や、やり方にフォーカスが当たりがちですが、チーム作りはマネジャーが一人で取り組むものではありません。メンバー全員が当事者意識を持って「良いチームとは何か？」を考えながら一緒に創っていくものです。本分科会では、チームメンバーのそれぞれが出来るリード・マネジメントの観点に注目して、良いチーム作りに取り組んできたノウハウを紹介させていただきます。

⑦

『選択理論に基づいた、幼児期における「上質な遊び」が生まれる環境創りに関する研究～子どもたちの豊かな「創造性」を育む選択理論の効果の検証～』

乳幼児期においては、基本的欲求が満たせる人的・物的環境が整うことにより、始めて子どもたちは、自分たちの「創造性」を十分に発揮し、「上質な遊び」を生み出すことができます。選択理論に基づいて人的・物的環境を整えて行くことが、「上質な遊び」を生み出し、そのことによって、人間関係が良好となり、さらに「上質な遊び」を生み出すことにつながっていきます。この相乗効果によって健全な発達が助長され、それに基づいた人間形成も期待できることを検証するために本分科会のテーマを設定しました。